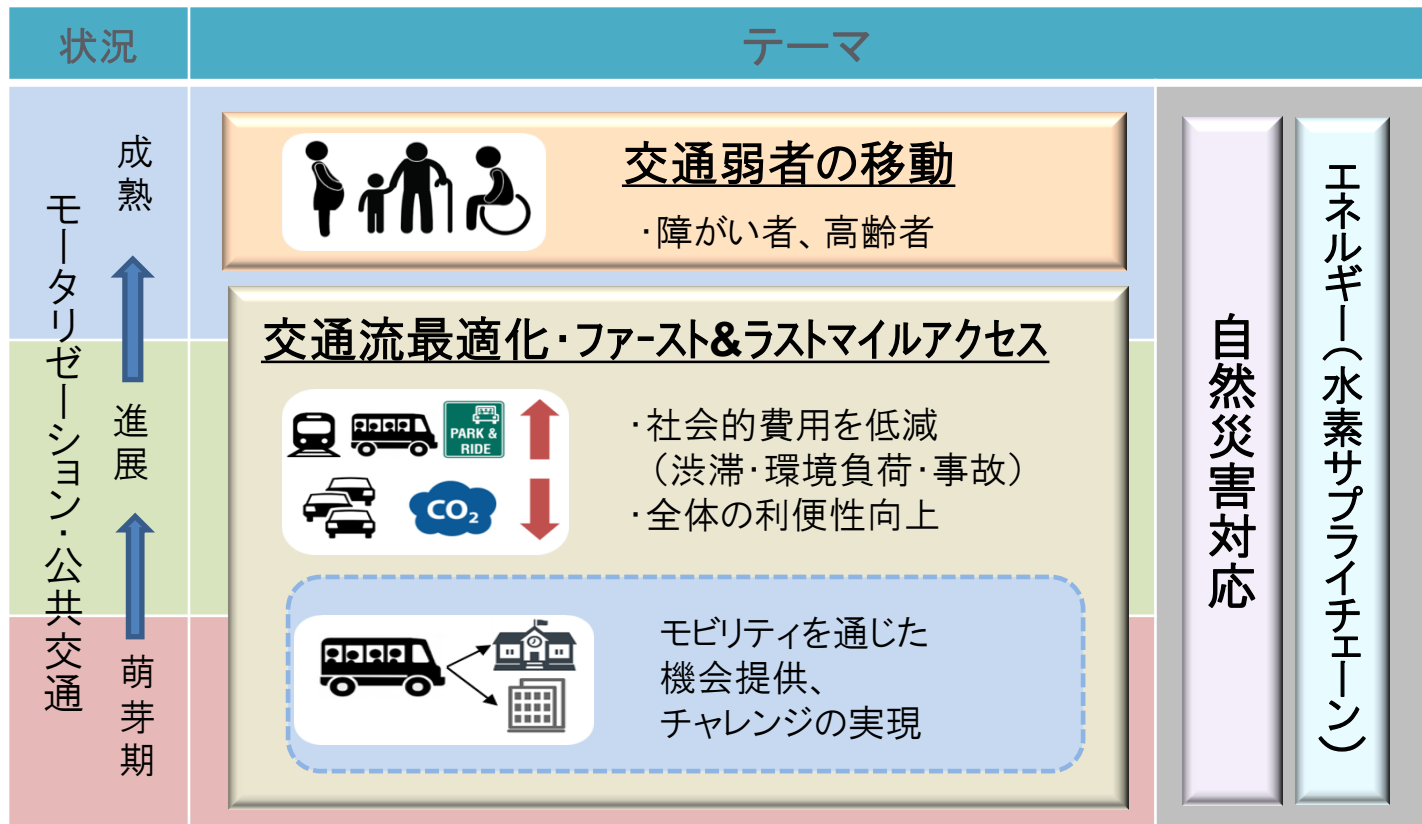


一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(TMF) 綱領

人々の自由な移動の実現を通じて、豊かでサステナブルな将来社会におけるレガシーとなる活動をグローバルに行う。

世の中を変えるイノベティブな技術、仕組みの実現に向けチャレンジする。

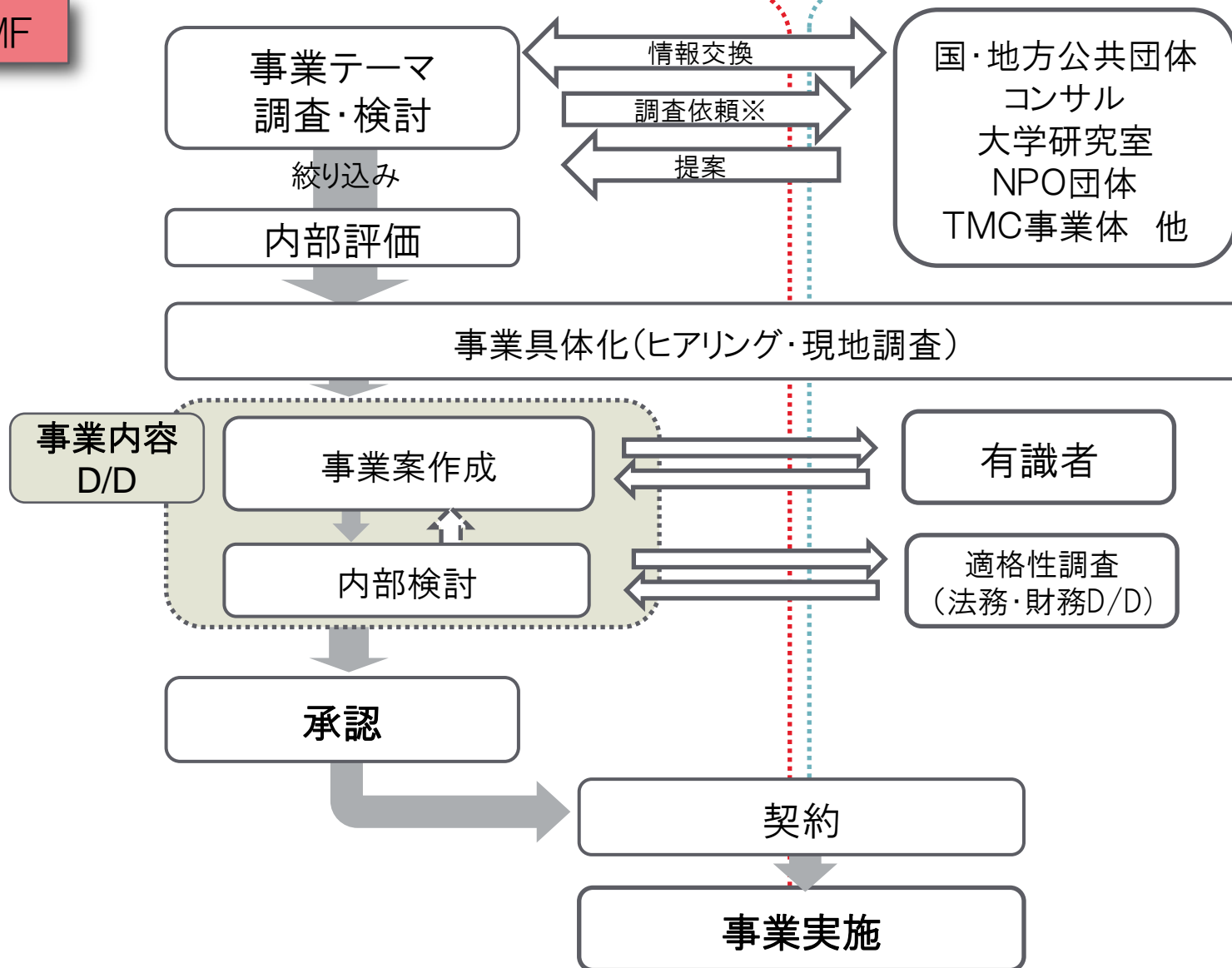
同じ志を持つ多様なパートナーと共に、コラボレーションしながら目標の実現を目指す。活動を通して学び、その結果を広く社会に共有する。



事業形成プロセス

TMF

潜在的
パートナー



実施プロジェクト例

⑥次世代モビリティチャレンジ

イノベティブな方法での
モビリティ課題解決

対象 全米15大学の学生
内容 コンテスト優勝チームの
アイデアが助成案件候補

⑩New Cities Foundation

都市のモビリティ課題解決に向けたイノベ
ティブな取り組みに関する協力関係

⑤インド

地下鉄へのアクセス(ファースト&ラストマイル)向上

期間 ①2016年12月-2018年3月(1年4カ月)
②2018年6月-2021年5月(3年)

パートナー ワールド・リソース・インスティテュート

⑨ブラジル

都市中心部へのアクセス向上

①アイデアコンテスト ②最優秀チームの実証実験

期間 ①2018年1月-2018年12月(1年)
②2019年1月-2020年12月(2年)

パートナー ワールド・リソース・インスティテュート

③上山(岡山県美作市)

中山間地域における持続可能なモビリティ
モデルの構築

期間 2016年1月-2019年3月(3年3ヶ月)

助成先 みんなの集落研究所
英田上山棚田団

④足助(愛知県豊田市)

中山間地域における持続可能なモビリティ
モデルの構築

期間 2016年4月-2019年3月(3年)

助成先 名古屋大学、東京大学

②ダナン

交通渋滞の未然防止

期間 2015年4月-2019年4月(4年)

助成先 ダナン市人民委員会

①バンコク

交通渋滞の緩和

期間 2015年4月-2017年3月

助成先 チュロンコン大学

⑦水素(日本)

基礎研究裾野拡大に向け2017年7月末より
公募を開始

期間 2017年7月~(5年間)

助成先 日本国内の大学及び研究機関

⑪地域の移動(日本)

持続可能な移動の仕組み作りをする
活動に対する助成金公募を開始
活動期間 2019年4月~(2年間)

⑧モビリティ・アンリミテッド・チャレンジ

下肢麻痺者の多様なニーズに対応できる補装具のアイデア発掘、開発支援

対象 世界中の革新的なアイデアをもつ個人や団体

期間 2017年11月-2020年9月

③ 上山プロジェクト(岡山県美作市)

| | |
|--------------|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">• 移動の不便の解消に向けた移動手段の多様化、および、仕組みづくり• 仕組維持に要する費用確保に向けた産業(観光)創出 |
| 現状/成果 | <ol style="list-style-type: none">1. <u>全住民(160人)に移動を含む困りごとを調査(2016年10月)</u><ol style="list-style-type: none">①住民にコムスを貸与し移動量、満足度変化を調査 高頻度利用者: 外出頻度と移動量が上昇 低頻度利用者: 交通量の多い道での安全面を不安視②モビリティとITを活用した、農作業の負担軽減を目指したハッカソン開催 自動草刈り機を開発中2. コムスを活用した観光ツアーを試行(2016年8月)3. <u>住民が「地域の理想像」及び「移動の仕組み(乗り合い、助け合い等)」を構築して実証(2017年～)</u> |
| 今後の予定 | <ol style="list-style-type: none">1. 集落内に、医療、買い物ができる拠点、及び、移動の仕組みを構築2. 行政区を超えた移動ニーズへの対策・立案 |

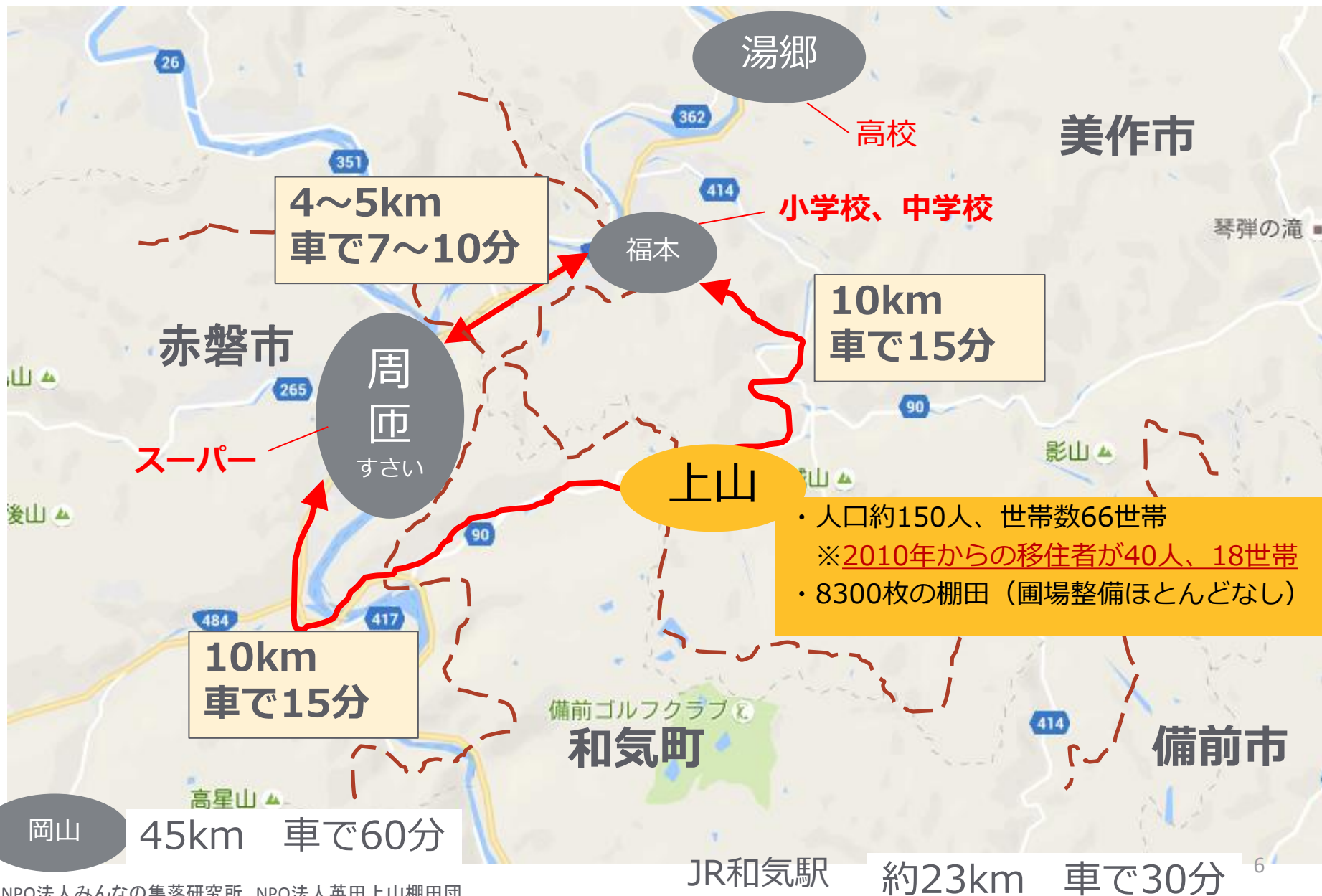


④足助プロジェクト(愛知県豊田市)

| | |
|--------------|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">中山間地域における移動の不便を解消する仕組づくり仕組みの活用による<u>社会コストの低減</u> |
| 現状/成果 | <ol style="list-style-type: none">「コミュニティサポートシステム(乗り合い、健康見守り、外出促進)」への参加者募集(2016-17年)参加者同士の懇親を深め、高齢者からの送迎希望の申請と、近隣住民の「マイカー同乗許可」とのマッチング率向上を促進(2017年～)「ゆっくり自動運転」搭載のコムスの実験走行を実施(2017年10～11月)住民サークル活動で地域ニーズ(二人乗り、荷台)に合わせてコムスを改造。車両登録認可を取得。出発式を実施(2018年1月) |
| 今後の予定 | <ul style="list-style-type: none">今後の活動の維持・定着のため、地域主体による継続体制の検討 |



上山地区の課題： 行政区を跨ぐ移動



(1) 暮らしを支えるモビリティの整備

① 日々の活動、農業、観光等を支えるモビリティの多様化

【免許要】



超小型EV



EV三輪車



ソーラー充電
(準備中)



EV車椅子



アフリカの
ソーラー自転車

【免許不要】

② 乗り合いなど助け合いの仕組みの構築



「助け英田 しちゃろう会」の結成



乗り合い



お出かけツアー

上山の「楽しみづくり」と「生活支援」の取り組み

住民相互の助け合いの会
(移動～草刈りまで幅広く実施)



集いの場づくり

生活支援サービス利用料
支え合い送迎の積立金



参加費

活動継続に必要なお金
(車両リース代・
運営スタッフ手当等)

コミュニティが走るバスツアー

参加費



売上げ

美作市からの助成



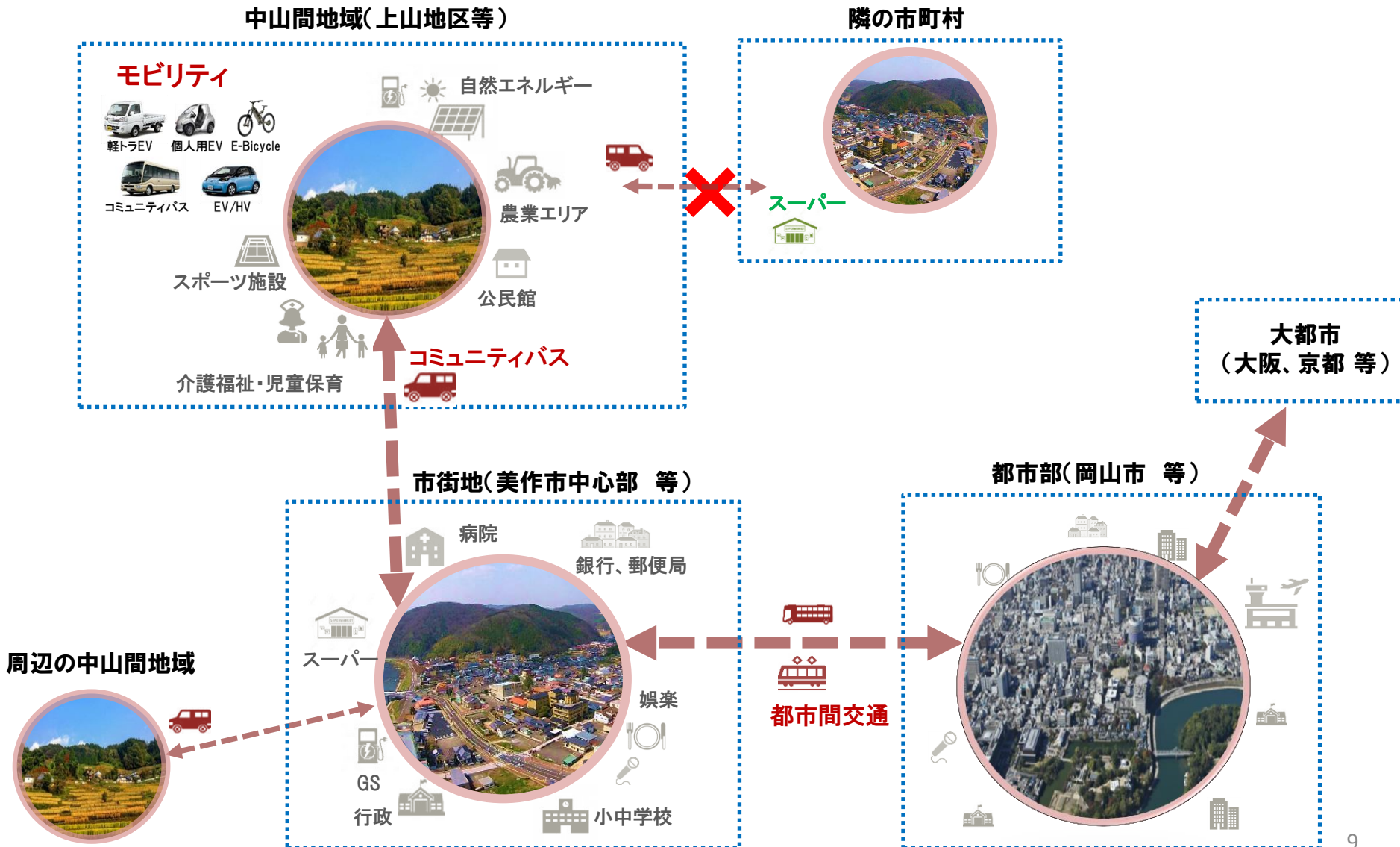
イベント等の実施

人気メニュー TOP10 (2017年5月～2年間)

| | | | |
|---------|------|-----------|-----|
| 1. 無償運送 | 100回 | 6. 書道教室 | 13回 |
| 2. 子守り | 44回 | 7. 農作業手伝い | 11回 |
| 3. 犬の世話 | 32回 | 8. 草取り | 10回 |
| 4. 家庭教師 | 28回 | 9. 写真整理 | 6回 |
| 5. 草刈り | 25回 | 10. 家の片付け | 5回 |

(1) 暮らしを支えるモビリティの整備

③行政区を越えた中山間地域へのアクセスの改善



(2) 地域経済を支える産業の活性化

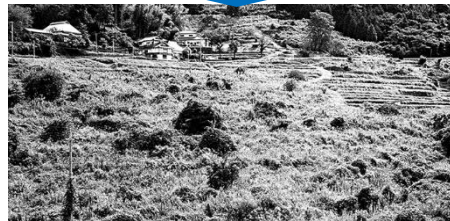
NPO法人『英田上山棚田団』による棚田の再生



1975年
耕作放棄前



2008年
荒れ果てた棚田



棚田団が再生した
現在の集落



① 自然体感ツーリズムの開発、観光客誘致



② 上山野菜(有機無農薬、野草)のブランド化



⑪地域の移動の仕組みづくり（日本）

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の活用や、地域の多様な分野で活動する様々なプレイヤーによる連携等、持続可能な移動の仕組み作りをする活動を支援 ・Webサイトに、好事例、ツール、学びを掲載し情報提供・共有のプラットフォーム化 |
| <p>現状</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月 「みんなで作る地域に合った移動の仕組み」ガイドブック発行 ・情報共有サイトオープン http://min-mobi.jp/ ・2018年11月 活動助成金公募 自治体、公共交通事業者、NPO等からの申し込み(105件)より29件を採択 |
| <p>今後の予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・研究員と共に助成案件を支援 ・地域の移動課題に関する有効なソリューションの構築、共有 等 |



ガイドブックでは、導入方法や好事例を掲載



情報共有サイト